

すべての新入生諸君に 闘う自治活動を提起する!

キャンパスに並ぶタテ看板や、毎日配られるおた
だしいチラシの中に、我々全学学生自治会同学会のそれ
らがある。学生自治会とは、多くの高校の生徒会のよ
うな学校当局と生徒との窓口機関とは全く異なる。

学生自治会の役割とは、後記の三点である。我々は
この任務を果たすべく、72年の同学会再建に努力を
重ね、多くの成果を支え取りて来た。諸君も我々の呼
びかけに応え、我々と共に「闘う自治」活動を開始し
てほしい。ニヒリズムに陥る必要はない。我々も、我
々の矢張りもそうした自治活動を通じてS君の教育実習
を支え取り、熊取町への京大(研究用原子炉)2号炉
設置を阻止し続け、三里塚闘争の重要な一翼を担っ
てきたのだ。

このたいくつで不満だらけの現状を打破することは
可能なのだ。

教養部の自治はクラスを単位にして、クラス討論を
基盤として行なわれる。そして、教養部自治会が存在
しない現在、その最高議決機関として、代議員大会が
毎年開かれている。

全学学生自治会の役割

1. 同学会は学生の団結を保障し、その基本的権利を
守る。

諸君も知っての通り、大学では様々なサークル活動
が盛んである。この自主的なグループ活動に対し、大
学当局は様々なおぼえをほめ、学生への管理を強めてき
ている。教養部中央館などの活動の場の一方向的破壊、
教室使用制限の強化、タテ看板の一方的撤去、西部構内
に管理されたサークル棟を建てる計画等としてそれは
現われている。また、最近の単位制強化、テスト評価
の厳格化は、学生をグループ活動よりは孤独な予スワ
ークに向かわせている。さらに当局の管理に従わない
ことを理由に、学生が自主的に運営している寮をつ
ぶそうとしている。

これらすべてがマスコミなど社会状況と相まって学
生の団結を阻害し、個々バラバラに分断して管理、支
配しようとする当局の一連の姿勢となっている。分断
され発言権を縮小された学生は、その基本的権利を侵
害されている。先に掲げた様々な管理強化や学費値上
げ等々である。

こうした当局の攻撃に対し、同学会は、尚賢館の自
主管理、11月祭への主体的参加、寮闘争への連帯、学
費闘争、クラス活動の呼びかけ等々を通じて、学生の
団結を保障し、その権利を守る闘いを続けてきた。

2. 大学の腐敗を撃ち、国家的大学再編を阻止する。

しかし、「学生の権利を守れ」「自由な大学を創ら
う」といった権利擁護のみに終始しては決定的に
不十分である。まず、自分が位置する大学を社会の中
で客体化し、批判的にとらえ直さねばならない。

一言でいうならば、大学は、高級労働力選別、養成
機関であり、国家一資本に奉仕する研究を行なう機関
であり、支配者層の道具である。

選別機関としての大学の位置は大きい。大学に入学
できるのは、同世代の4人に1人、さらに入学後も大
学間格差の中で、選別され振り分けられる。こうした
選別は、経済格差 成績 = 「能力」格差を軸に行なわ
れ、その過程で、女性、部落民、在日朝鮮人、韓国人、
精神・身体障害者等が振り落とされていく。

また現在の教育とは、第一に国家一独占資本のイデ
オロギー、現在の社会秩序を維持するためのイデオ
ギーの注入であり、第二に日常的に出席を確認し、単
位一テストで学生をしばりつけることにより、学生
管理の一手段となっている。

研究も「支配者のための研究」にすぎない。委託研
究という形で、企業の肩代りとし、体制イデオロギー
の再生産を行ない、必然的に、教授への企業献金や、
有毒物質の学外タレ流し、公営企業や国家政策に加担
する御用学者といった、教官、研究の腐敗を生んでい
る。

しかも、激動する国内外の情勢の中で、支配者層は
大学の現状は非効率であるとして、さらに効率のよい
道具として純化するたの、大学再編を文部省一大学当
局の手によって進めている。管理強化、腐敗化攻撃、
単位制強化、研究機関の再編、「産学協同」の新たな
展開等々がその一連の攻撃である。

我々は、差別・分断の強化、企業での労働強化、公
営の隠蔽、暴力行使、AALA諸国への経済侵略や
軍事増強への加担といった形で、支配者の道具となっ
ていく大学を、労働者、住民、被差別大衆の視点に立
ち、彼らの闘いに学びつつ、撃つていかねばならない。
同学会は、たばこ処分闘争、検閲一ロックアウト粉
砕闘争、熊取闘争など、一貫して大学の腐敗と国家的
再編に対して闘い続け、検閲一ロックアウトを粉砕し、
熊取2号炉設置を阻止し続けるなどの成果をおさめて
いる。

京 都 大 学
全学学生自治会 **同学会**

3. 国内の労働者、住民、被差別民衆、そして世界の人民と連帯する、学生の政治的発言を結集し、物質的力とする。

資本主義下の大学が必然的に国家-資本の道具となっている現状で、大学内での闘いは、不可避的に国家権力との闘いになる。

また、先進資本主義国である日本が、国内で大衆収奪を強め、労働疎外、差別、公害を生み、さらにその矛盾を、経済侵略という形でAALA諸国へしわ寄せしている現状で、生産関係から一定の距離をおく自由な学生の発言、行動は重要である。韓国で圧政のくさりを見つと立ち上がった、'80年5月の光州蜂起の口火をきいたのが学生であったように。

同学会は、三里塚闘争への主体的参加、徒山差別裁判糾弾闘争への参加等々を打ち取り、とりわけ'80年、'81年の金大中氏への死刑阻止を掲げたバリケードストライキは、全国の注目を集めた。

行政改革、右翼的労働統一、刑法「改正」、軍備大幅増強等々、国家的国内再編と、戦争をもにらんだ侵略体制の整備が押し進められる一方、欧米の反核闘争、中米や韓国等、民族解放闘争が前進しつつある現在、日帝本国の我々が、帝国大学=京大を撃ち、さらに様々な人民の闘いに連帯する意義は大きい。

学生運動を語り、自治を語る集団の中には、以上の自治の任務とは全く無縁な集団がある。

そのひとつが、「教養部自治会」や「自連協」と名

のる日本「実業」党-民青同盟である。彼らは学内では勢力拡大のため、「学問の自由」「豊かな学生生活」を唱え、学生の即自的要求にコビを売る一方、自らの立場性を批判的にとらえて闘う学生に対しては、「暴力学生」のレッテルを貼り、さらには暴力事件デッチ上げ-告発、告発を行ない、当局や国家権力の弾圧に手をかしている。このような党派エゴむき出しの活動は、学内のみならず三里塚で、部落解放闘争で、労働現場で、日共に対する激しい糾弾の声を生んでいる。'82年に入ってからのも「自」の活動が、「10・24暴力事件」デッチ上げで警察権力に手をかすこと、府知事選活動のみであったことは象徴的である。断つてみると、現在の「自」とは、'76年、民青ケハルト部隊の動員で暴力的にデッチ上げられた、私設団体であり、規約上成立したことなど一度もない。

ふたつめは、右翼的学生運動である。現在、全国的に登場している潮流のひとつは、原理研究会-統一協会-統一共連合であり、もうひとつは、反憲学連-日本文化研究会である。両者とも政財界の大物とむすびつき、豊富な資金源をバックにして、右翼的学生運動の創出、闘う学生自治に対する、当局、権力と一体となった敵対、破壊をめざしている。さらに全国的に、反ソ-反共キャンペーン、スパイ防止法制定、憲法改定運動などを推進し、極右勢力の尖兵となって、被抑圧人民の闘いに敵対している。彼らに自治を語らせることは断じて許せない。それは民青との比ではない。全学反の「原理研、反憲学連-掃」の声を結集させ、実行することは、全学自治会の大きな任務であると考えている。